

第二研究会開催のお知らせ

粘膜ワクチン開発を目的とした トランスレーショナルリサーチ



野地 智法 先生

東北大学大学院農学研究科 准教授 機能形態学分野

インフルエンザやHIVといった粘膜感染症に対し、ワクチンの効果を粘膜局所に誘導することが可能な粘膜ワクチンの有効性が提唱されてから、早いもので30年以上の月日が経つが、実用化されている粘膜ワクチンは、世界中を見渡してもそれほど多くは存在していない。日本では、ポリオワクチンが唯一の粘膜ワクチンとして長い間使用されてきたが、安全性に関する懸念から、経口生ワクチンから皮下接種型の不活化ワクチンに切り替わったため、今日医療の場で用いられている粘膜ワクチンは一つも存在していない。米国やヨーロッパなどでは、近年、インフルエンザ経鼻ワクチンの使用が認可され広く普及しているが、本国では未だその使用は認められていない。本講演では、粘膜ワクチン開発が抱える問題点を提起し、それを克服するためのいくつかの材料工学的手法を駆使した研究成果を紹介したい。また、粘膜ワクチンの実用化を目指した研究を実施する上で、マウスを用いた基礎研究を進展させ、霊長類を用いたトランスレーショナルリサーチを実施することは非常に重要であるが、倫理上の問題から、霊長類を用いた研究を計画することは簡単ではない。本講演では、それに変わる方法として近年注目されている、ヒトの免疫系を発達させた小動物モデルである、「ヒト化マウス」の研究の最前線を紹介し、特に、ヒトの粘膜免疫学研究に焦点を当てた、ヒト化マウスを用いた最近の研究成果を紹介したい。

日本生物科学研究所
管理棟 会議室2・3

平成26年

6 / 19

15:00~17:00

木



一般財団法人 日本生物科学研究所

NIBS NIPPON INSTITUTE FOR BIOLOGICAL SCIENCE